

[Hondaの交通安全情報紙]

SJ

Since1971

SJ ホームページは

●編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
TEL 03 (5412) 1736 <http://www.honda.co.jp/safetyinfo/>
●編集人：吉田宏樹

※ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。
株式会社アストクリエイティブ
安全運転普及本部係
TEL 03 (5439) 1191
E-mail: sj-mail@spirit.honda.co.jp



Safety for Everyone

Honda はすべての人の交通安全を願い活動しています。

2015
10・11

October・November

NO.474

CONTENTS

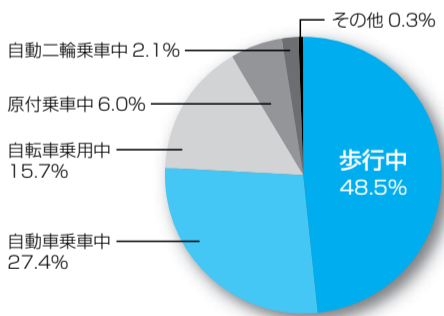
- P1 特集：高齢者への交通安全教育
高齢歩行者の道路横断中事故を防ぐための新たな教育プログラムを開発!
- P4 教育最前線 / 神奈川県立逗葉高等学校
- P5 現場訪問 / (株) 葛城
TOPICS / 交通安全指導員教育プログラム勉強会
- P6 FRONT LINE /
認知機能低下が運転に与える影響を明確にしてより説得力のある運転可否の判断方法を追求
- P7 危険予測トレーニング (KYT) /
走行車両の直後を横断する時 (歩行者編)
SJ クイズ
指導者ファイル /
青森県青森市・交通安全教育指導員の皆さん
- P8 SAFETY FOCUS / 岡山県岡山市



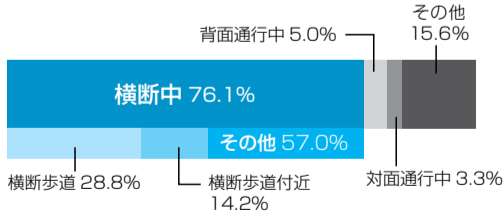
特集
高齢者への交通安全教育

高齢歩行者の道路横断中事故を防ぐための新たな教育プログラムを開発!

●高齢者 (65 歳以上) の状態別・交通事故死者数 (平成 26 年・構成率)



●高齢歩行者の事故類型別・交通事故死者数 (平成 26 年・構成率)



※出典：(公財) 交通事故総合分析センター資料

岩手県滝沢市の交通安全教育専門員 (写真上) や (一財) 長野県交通安全教育支援センターの指導員 (写真下) は Honda が開発した新たな教育プログラムを交通安全教室で活用

高齢歩行者の事故はどのような場所で起きているのだろうか。平成 26 年の高齢歩行者の交通事故死者数を事故類型別にみると、76・1% が道路横断中である。そして、そのうち半数以上は横断歩道(横断歩道付近を含む) 以外だ。また、自宅からの距離別にみると、500m 以内が 61・9% で 50m 以内も 17・1% となっており、普段通り慣れた道で事故に遭っていることがうかがえる。つまり、高齢歩行者への教育においては日常、利用する道路での横断時の事故を防止するための教育がポイントとなる。

高齢者の交通事故死者数を状態別にみると、歩行中が半数近くを占めている。高齢者の歩行中の死者数を減らすことが、全体の死者数低減につながるといえるだろう。そこで、Honda は現場で教育を担う交通安全指導員の方々の意見を参考に、高齢歩行者の事故低減に寄与するための新たな教育プログラムを開発 (11 月に「安全な道路の渡り方について」交通安全教室) として完成する。今回は、この高齢歩行者向けの新教育プログラムの特長について紹介する。



こうした状況をふまえ、Honda は昨年、高齢者の歩行中の交通事故低減に寄与するため、新たな教育プログラム「安全な道路の渡り方について」交通安全教室の開発に着手した。

(公財) 交通事故総合分析センターの資料によれば、高齢歩行者が単路で横断歩道以外を横断中に死傷したケースでは

横断後半に左側から来るクルマとの事故を防ぐ

特集
高齢者への交通安全教育

高齢歩行者の道路横断中事故を防ぐための**新たな教育プログラムを開発!**

全国の5つの会場で行われた「交通安全指導員教育プログラム勉強会」では、安全運転普及本部のスタッフがプログラムの詳細を説明



今回のプログラム開発においては昨年、「教材研究会」を全国各地で実施し、高齢者への教育を担当している交通安全指導員の方々の意見や要望をヒアリングするところからスタートしている。開発の途中段階でも交通安全指導員の方々の

交通安全指導員の方々の意見や要望を反映

死者数、負傷者数ともに横断前半よりも横断後半の構成率が高くなっている。そこで、開発中のプログラムでは、横断後半に左側から来るクルマとの事故を防ぐための安全行動を高齢者に理解してもらうことをテーマの1つとしている。横断中、事故に遭う過程を再現した映像を使って道路横断を疑似体験できる内容も取り入れ、高齢者に意識と行動のミスマッチを理解してもらいながら、指導者が事故防止についてわかりやすく解説できる内容とした。「昼間編」「夜間編」という構成になっており、交通安全教室の実施時間に合わせて選べる工夫がされている。また、指導者がこれまで行ってきた手法にプログラムの一部を組み合わせて使うことも可能である。

アドバースをいただく機会を設け、使いやすさを向上させるための検討を重ねている。より良いプログラムを、多くの指導者に活用してほしいからだ。

8月に全国の5会場で開催した「交通安全指導員教育プログラム勉強会」(5面参照)で、プログラムのサンプル版を発表。参加した交通安全指導員の方々に「歩行者視点での映像素材は今までになかったので利用してみたい」「道路横断中にクルマが歩行者に近づいてくる映像は臨場感がある」「簡単に体験してもらえそう」と好評であった。希望する交通安全指導員の方々には、このサンプル版(DVD)を配布し、その方々を通じて高齢者向けの交通安全教室などでモニタリングを実施。実際に活用した上での改善要望を収集し、それらを反映させて11月の正式版完成をめざしている。

活用事例① 岩手県滝沢市

サンプル版を活用して、高齢者に交通安全教育を行った地域2つの事例を通して、ホンダの新たな教育プログラム「安全な道路の渡り方について」交通安全教室」の内容を紹介する。

事故の原因を歩行者とドライバーの目線で考える

滝沢市市民環境部防災防犯課・交通安全教育専門員の工藤洋子さんと北川郁子さんが、9月18日に同市室小路地区の高齢者を対象にした交通安全教室で今回のプログラムを使用した。

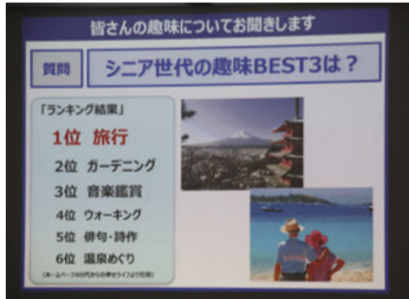
工藤さんが集まった高齢者13名に「皆さんの日頃の楽しみは何でしょうか?」と問いかけ、教室が始まる。「シニア世代の趣味BEST3は?」という高齢者にとって身近な質問を使ったこのプログラムの導入である。北川さんが「交通事故はいくつかの思い込みが重なった時に起きることが多いといわれています。それは、どんな時でしょうか?」と、スクリーンに注目させる。高齢者をイメージしたキャラクターが片側1車線の道路を横断するアニメーションが映し出された。右



横断後半に左側から来るクルマとぶつかるアニメーション



アニメーションで示された事故の過程を歩行者とドライバーそれぞれの目線の映像で再現



最初は高齢者にとって身近な話題から入り、緊張感をやわらげる

側から自分の前をクルマが通り過ぎた後に横断を開始するが、通り過ぎたクルマの死角に別のクルマがいて、そのクルマとぶつかってしまった。こうした単路での道路横断中後半に左側から来る車両との接触が、高齢者の歩行中の死亡事故の特徴であることを説明し、なぜ事故が起きるかを高齢者に考えてもらう。そのための材料として、事故にいたる過程を歩行者とドライバー、それぞれの目線で再現する映像を流す。歩行者は自分の右側から通過したクルマで左側から接近するクルマが見えなくなり、ドライバーはすれ違う対向車によって右側から横断しようとする歩行者が見えなくなる。北川さんは歩行者とドライバーがお互いの死角に入ってしまうことが、事故原因の1つと説明した。

クルマは思っているより早く接近することを体感

では、安全に道路を横断するにはどうすればいいか。まず、高齢者の代表数人が道路横断シミュレーションを体験。高齢者はスクリーンから5m離れた位置に立ち、北川さんの合図でスクリーンに向かつて歩き始める(写真下参照)。それと同時に、スクリーンに片側1車線の道路の左からクルマが接近する映像を再生。高齢者がスクリーンの中央にさしかかったところで、スクリーンの中のクルマとぶつかりそうになる。意識と行動のミスマッチを理解してもらうことがねらいだ。

北川さんが合図を出した時点で、映像のクルマは120m先にいる。120mという距離をイメージしやすくするために、「これくらいの位置にクルマがいたら、皆さんは横断を開始しますか?」と北川さんが問いかけると、「渡っちゃうかもしれない」という声が上がった。「このクルマは60km/hの速度で(スクリーンの奥から手前に)向かってきますか

ら、7秒後には目の前に来ています。皆さんの年齢ですと、5m歩くの5秒くらいかかります。つまり、10mある片側1車線の道路を渡りきるのに10秒かかりますから、道路の中央を過ぎたあたりでぶつかってしまうのです」と北川さんは図を使って、クルマとの距離感や速度はつかみにくいこと、クルマは自分が思っているより、かなり近づいていることを解説。安全に渡るためには、「クルマが通り過ぎてはすぐに渡らず、クルマが近づいていないか確認する」「クルマが遠くに見えても横断せずに通り過ぎるまで待つ」「渡れると思って横断を始めてもセンターラインの手前で左からクルマが近づいていないか、もう一度確認する」とまとめた。

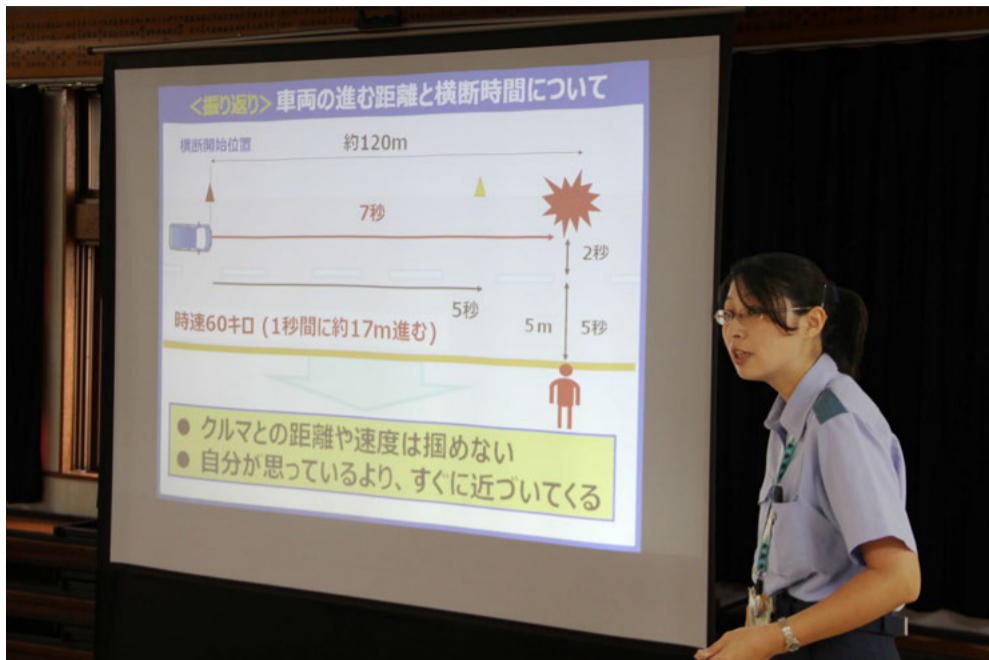
この後は「夜間編」。画像を使って、ヘッドライトの「ハイビーム」「ロービーム」の照射範囲、夜間におけるドライバーからの歩行者の見え方などを高齢者に確認してもらった。「夜間は自分の存在をドライバーに気づかせるために反射材を着



道路横断シミュレーションではスクリーンの5m横から歩いてもらう

特集
高齢者への
交通安全教育

高齢歩行者の道路横断中事故を防ぐための新たな教育プログラムを開発!



道路横断シミュレーションで結果をふまえて、横断後半に左側から来るクルマとぶつかってしまう原因を解説

「クルマのライトが遠くに見えるても横断せずに通り過ぎるまでは渡らない」と、北川さんは「夜間編」をまとめ、プログラムは終了となった。

交通安全教室に参加した高齢者からは「年をとると話だけではなかなか理解しにくいので、イラストや動画が豊富でわかりやすかった」「ドライバーは対向車の死角に入って歩行者が見えなくなる」とがわかりました。近くにある県道はスピードを出しているクルマが多いので、道路を横断する時は両方向からのクルマが完全にいなくなってから渡ろうと思います」「ライト（ロービーム）の照射範囲がドライバーの右側のほうが狭くなっていることを初めて知り、勉強になりました」という声が聞かれた。

指導を担当した北川さんは「参加している皆さんの反応が良かったので、高齢者の方にも目から入ってくる情報は説得力があると感じました。このプログラムは、自分たちで内容をアレンジすることができると使いやすい」と、新たな教育プログラムを評価する。工藤さんは「こ

れから年末にかけて、高齢者向けの交通安全教室が増えます。このプログラムを活用していきたいので、完成を楽しみにしています」という。

活用事例② 長野県上田市

(二財) 長野県交通安全教育支援センターの指導員(梶田さな恵さん、松村孝子さん、杉本絹代さん、大工原真史さん)が、9月24日に上田市の塩田公民館で開催されたイベント「老いも若きも交通安全」(主催・上田交通安全協会)の中で来場した若者から高齢者50名にプログラムを披露。内容は、道路横断シミュレーション。正面のスクリーンには120m先にいるクルマが映し出されている。梶田さんが、おじいさんに扮した松村さんに「このくらいクルマが遠くに見えていたら、渡れますか?」と聞く。「そりゃ、渡るさ」とおじいさん役が舞台の左端から右手に向かって1m/秒の速さで歩いていくと、舞台の中央付近にさしかかった時に映像の中のクルマとぶつかるタイミングとなった。おじいさんが「このクルマ、80km/hで」とぼしてきたんだよ」というと、指導員が「映像の中のクルマは120m先から60km/hで近づいてきていたんです」と返す。次は、参加者の代表者に舞台上上がってもらい、同じように体験してもらおう。やはり、舞台の中央付近で映像の中のクルマとぶつかりそうになった。指導員がクルマ

横断シミュレーションを寸劇に取り入れて活用

が進む距離と横断時間について図で示しながら解説。「クルマが見えたら、『危ない』と思って通り過ぎるのを待ちましょう。クルマの流れが途切れないような場所では、信号機や横断歩道のあるところで横断してください」とまとめた。

夜間のドライバーからの歩行者の見え方を確認

続いて、夜間に単路を走行するクルマのドライブレコーダーが記録した映像を流し、参加者に映像の中の歩行者を見つけてもらう。横断歩道以外の場所を横断する歩行者も現れるが、それが認識できた参加者は少数だった。こうした映像を使って、夜間はドライバーが歩いていたり、道路を横断する歩行者を発見しにくいことを実感してもらおう。「夜間は歩行者も反射材を身につけて、ドライバーに見つけてもらいやすくする必要があります」と反射材の効果を示す画像を見せながら参加者にアドバイスした。会場には高齢者以外に若者もいることから、ヘッドライトの「ハイビーム」と「ロービーム」でのドライバーからの歩行者の見え方の違いを示し、「夜間、対向車がない時はロービームではなくハイビームを使ってください」と指導員が呼びかけた。

イベントに参加した60代の女性は「リアルな映像が使われていたので、興味深く見ることができました。歩行者はドライバーに見過ごされやすいということがわかったので、そうしたことを意識して歩きたい」と感想を語ってくれた。

メインで指導を担当した梶田さんは「道路横断シミュレーションなどの臨場感のある映像を使えるのは、指導する上でたいへん有効です。また、パソコンとプロジェクトがあれば簡単にできるので、使いやすいプログラムだと思います。パソコンを使って映像をまじえた指導は今回が初めてです。高齢者の中には寸劇だけでは物足りなく感じている方もいると思いますので、今後はこうした手法を取り入れていきたい」という。

このように岩手県と長野県の2つの事例では、ホンダが開発したプログラムが指導者と高齢者の双方に受け入れられたといえる。今後、こうした高齢者への新たな教育手法の普及が期待される。



(一財) 長野県交通安全教育支援センターの指導員は寸劇の中に道路横断シミュレーションなどプログラムの一部を取り入れた

ヘッドライトの機能について

ハイビーム: 約100m

照射範囲は見えにくい

ロービーム: 約40m

ヘッドライト照射範囲イメージ (ロービーム)

ドライバーから見た歩行者の見え方～夜間～

ハイビーム

歩行者の存在はわずかにわかる

ドライバーから見た歩行者の見え方～夜間～

ロービーム

歩行者の存在に気付かない

《ドライバーから気づかれない可能性が大きい》

※紙面で紹介しているプログラムの内容・画像はサンプル版のため、正式版と異なる場合があります。

“安全な道路の渡り方について”交通安全教室

プログラム(DVD)には、以下の4つのポイントを高齢者に理解してもらうための映像や画像(図、イラスト)が収録されている。

- ①クルマが通り過ぎても渡らず、左側からクルマが近づいていないか確認する。
- ②近くを見ると遠くのが死角となるので、体全体(目とへそ)で安全確認する。
- ③道路横断時は、センターライン(道路の中央付近)手前でクルマが近づいていないか、もう一度確認する。
- ④夜間は反射材を着用し、クルマのライトが見えたら待つ。

●プログラムの流れ(昼間編の場合)

| | 時間 | 内容 |
|-------------|-----|--|
| 導入 | 5分 | プログラムの目的を理解してもらう。 |
| 高齢者の交通事故の特徴 | 10分 | 高齢者の道路横断中の事故の特徴を提示し、どんな行動が危険かを考えてもらう。 |
| 映像による体験 | 5分 | 歩行者目線とドライバー目線の映像を見せ、道路横断中に潜む危険に気づいてもらう。代表者に道路横断シミュレーションを体験してもらう。 |
| まとめ | 10分 | 「思い込み」の危険に気づいてもらい、安全な横断方法を理解してもらう。 |

高齢歩行者向け教育プログラム「安全な道路の渡り方について」交通安全教室」を活用したいという自治体、警察、団体の方は最寄りの地区普及ブロックにご相談ください。

- 栃木普及ブロック(栃木県真岡市) TEL: 0285-84-7114
- 埼玉普及ブロック(埼玉県狭山市) TEL: 04-2955-5323
- 浜松普及ブロック(静岡県浜松市) TEL: 053-439-2316
- 鈴鹿普及ブロック(三重県鈴鹿市) TEL: 059-370-1553
- 熊本普及ブロック(熊本県大津町) TEL: 096-293-3206